



青少年赤十字

JRCふくしま

編集発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

「不易」を確認する日々



福島県青少年赤十字指導者協議会長
福島市立福島第一小学校長
齋藤 吉成

四月、本校において福島地区の青少年赤十字指導者協議会の研修会が行われました。当日、日赤福島県支部から青少年赤十字指導講師として土屋悦男先生をお招きして、ご指導をいただきました。その際、土屋先生がお持ちになった資料の一つに「青少年赤十字の活用の仕方」という冊子がありました。冊子の奥書「この本は、昭和五十四年一月二十六日、岩手県青少年赤十字事例発表研究会」の講演を収録されたものです。」講師は、当時、青少年赤十字全国指導者協議会長で福島第一小学校長の古関富男先生です。青少年赤十字「初任者」の私はさっそく勉強！と思



▲朝の会

い、表紙をめくりました。すると冊子の中に、古関先生が勤務されている福島第一小学校の取り組みが次々に紹介されているではありませんか。しかもその一つ一つが、今もなお本校で継続されているも

のばかりでした。さらに、赤十字の根本精神である「人道」の敵についてふれられています。この敵こそ、私自身が抱える人間としての弱さそのもの。私は自分に言い聞かせるつもりで、全校朝の会において次のような話をしました。

「ひとりひとりの心を大切にしなければならぬ」と頭で分かっている、行動に移すことは簡単ではありません。その理由は四つです。

一つ。「自分さえよければいい」(利己心) 例えば、ブルンコに乗るためにたくさんの人が順番待ちをしています。そこに、早く乗りたくて列の途中に割り込む。

二つ。「他人はどうでもいい」(無関心) 例えば、テストが早く終わってしまいた。まわりはまだ終わらない中、時間をもてあまして一人

としない(認識不足) 例えば、雨上がりに傘を持ち帰りません。腕を振って歩けば、傘の先端で後ろの人のおなかを突いてしまいます。

四つ。「人の痛みが分からない」(想像力の不足) 例えば、校庭で仲間とサッカーに夢中です。鉄棒脇でボールを転がす人が一人。声がかからず、姿が消えました。

結びで、古関先生は、「青少年赤十字の伝統的な活動、あるいは特有の活動を、校長

平成二十六年度青少年赤十字 福島県指導者協議会総会開催

「東日本大震災」それに伴う東京電力第一原子力発電所の事故による放射能問題の対策の一つであります除染等も学校優先で行われ環境整備も整い始めています。しかし再開されていない学校、移転先での教育活動はまだ厳しい

しいものになっています。「青少年赤十字活動」も同様に制限を受けていますが相双地区の学校再開の予定、加盟の登録など少しずつ戻ってきているように感じます。そんな中

五月八日(木)に日赤県支部

がかわるうが、何があるうが、脈々と続けるということが一つの着眼である」と指摘されています。まさに、これは教育の「不易」です。続けて、「青少年赤十字は、何をすれば良いと決まっているものでもありません。創意工夫をこらし、(略)努力を忘れてはならないと思います。」と、『流行』の指摘もお忘れではありません。

いまの私は、とりあえず『不易』を確認して日々の勤務を大切にしたいと思っています。

で福島県教育委員会教育長杉昭重様(代理義務教育課菊地篤志様)、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長藤田伸朔様のご来賓と県内各地区、並びに高校の県と各地区の会長が出席なされて指導者協議会総会が行われました。

会議では前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、すべて承認されました。

前年度の反省・課題として教職員の青少年赤十字に対す

る意識・認識の差がみられ、それが研修不足などに表れているようです。反面、「青少年



▲校長会

赤十字活動」が特別なことととらえず学校教育活動と大いに関わりがあることをもっとPRしてゆきたいと言う声もありました。学校の統廃合問題により学校経営とJRC活動に位置づけの課題も出てくることも考えられる指摘や教職員の多忙や小規模校では出張がしにくい、研修の参加者の確保が難しくなっているなどが出て各地区での工夫がうかがえるものになっています。

今年度の努力目標は昨年度に引き続き、加盟の推進、活動の推進充実、情報交換推進、指導者の育成、関係機関との連携が挙げられました。

次いで役員の改選が行われ、齋藤吉成会長が選出されたのを始め左記の役員の方々が選出されました。

平成26年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 学校名 |
|-----|-------|-------------|
| 会 長 | 齋藤 吉成 | 福島市立福島第一小学校 |
| 副会長 | 神永 睦子 | 白河市立表郷小学校 |
| 副会長 | 林 弘美 | 南相馬立太田小学校 |
| 副会長 | 太田 孝 | 福島県立本宮高等学校 |
| 監 事 | 黒澤 俊廣 | 郡山市立宮城小学校 |
| 監 事 | 菊地 康則 | 猪苗代町立猪苗代小学校 |
| 監 事 | 山森 元昭 | 松韻学園福島高等学校 |

平成二十六年年度後半の 主な行事予定

● 青少年赤十字指導者研修会 並びに学校公開

期日 十月三十一日(金)
場所 田村市立緑小学校
田村市立移中学校

● 福島県高等学校青少年赤十字 連絡協議会秋季総会

期日 十一月六日(木)～七日(金)
場所 郡山市磐梯熱海温泉
清陵山倶楽部

● 青少年赤十字福島県指導者

協議会第二回会長会

期日 十一月十三日(木)
場所 日赤県支部

● 青少年赤十字作品募集優秀 作品表彰式

期日 十二月中旬(予定)
場所 日赤県支部または福島県青少年会館

● 指導主事対象青少年赤十字 研究会

期日 二月四日(水)～六日(金)

平成二十六年年度 青少年赤十字指導者講習会

今年度の講習会は八月十八日(月)～二十日(水)の二泊三日、左記の日程で国立磐梯青少年交流の家で開催されました。

今年度は小学校から三十三名、中学校から十二名、高校から六名、計五十一名での開催となりました。一校で複数の参加が二校あり、各地区で指導的な先生方の参加の講習会でした。初めて参加の先生方がほとんどで青少年赤十字の特徴あるプログラムが組まれた講習会になっています。

受付のところから「指示のない生活」＝掲示板の活用が始まり、その後の演習で「先見」、「ボランティアサービ

場所 神奈川県葉山町湘南国際村センター

● 青少年赤十字スタディー ンター

期日 三月二十二日(日)
～ 二十七日(金)
場所 山梨県山中湖村東証照館

ス」「ワークショップ」などの話がありました。ホームルームではその実践へと進んでゆき、青少年赤十字の行動目標の「気づき」、「考え」、そして「実行する」を先生方も体感、体験していきました。

主な内容と講師(敬称略)

○各班のホームルーム担当
一班 川村 卓也
(福島市立福島第二小学校)
二班 和田 有司
(伊達市立伊達東小学校)
三班 酒井 紹雄
(赤十字奉仕団指導講師)
四班 箱崎 仁
(いわき市立大野小学校)

五班 松本 光司
(いわき市立好間第一小学校)

六班 飯間香保子
(赤十字奉仕団指導講師)

七班 古川 盛也
(前青少年赤十字指導講師)

八班 石田 享子
(磐城第一高等学校)

○講話

「ふくしまの今と青少年赤十字」
赤十字奉仕団指導講師
川田 昌利

○演習

「JRCのリーダーって?」
Actionを起こすために」
石田 享子

○実技演習

・「子どもの居場所とレクリエーション」
県レクリエーション協会
渡部よう子

・「救急法短期講習」

日本赤十字社救急法指導員
酒井 紹雄・古川 盛也
石田 享子・金子久仁子

○講話

「ワークショップ」について
松本 光司

○講話

「青少年赤十字と学校教育」
県中教育事務所指導主事
宗形 潤子



○フィールドワーク
 【青少年赤十字賛助奉仕団】
 藤田 伸朔・酒井 紹雄・
 飯間香保子・古川 盛也
 【指導スタッフ】
 和田 有司・川村 卓也・
 箱崎 仁・田村 享子
 【日赤県支部】
 石田 政幸・日色沙織里
 ○事例発表(研究推進校より)
 いわき市立草野小学校
 込山久美子
 いわき市立草野中学校
 深谷 恭子・長谷川伸子
 田村市立緑小学校
 今野千鶴子
 田村市立移中学校
 五十嵐堅一
 ○演習ワークショップ
 「JRC活動をどのように
 学校教育に生かすか」
 (各H R担当)

8月18日から20日 日程表

| | 8月18日(月) | 8月19日(火) | 8月20日(水) |
|-------|-------------------------|------------------------|---------------------------------------|
| 6:15 | | 起床 VS活動 | 起床 VS活動 |
| 7:00 | | 朝の集い | 朝の集い |
| 7:20 | | 朝食 | 朝食 |
| 9:00 | | 先見 | 先見 |
| 9:30 | 受付 | 実技講習 | 実践報告 |
| 10:00 | 開会式・オリエンテーション | 救急法短期講習 | 「研究推進校として」 |
| 10:30 | | | |
| 11:00 | 講義 「福島の今と青少年赤十字」 | 講話 「学校教育と青少年赤十字」 | ワークショップ 「JRC活動をどのように 学校教育に生かすか」 |
| 12:00 | 昼食 | 昼食 | 昼食 |
| 13:00 | 演習 | | まとめ(ワークショップ発表) |
| 14:00 | 「JRC活動って? Actionを起すために」 | | |
| | 実技研修 | 実技 | 閉会式 |
| | 「子どもの居場所とレクリエーション」 | 「フィールドワーク」 | |
| 15:00 | 講話 「ワークショップについて」 | | |
| 16:00 | ホームルーム | フィールドワーク講評 | |
| 17:00 | タベのつどい | タベのつどい | |
| 18:00 | 夕食 | 夕食 | |
| 19:00 | 入浴 | 入浴 | |
| | ホームルーム | ホームルーム | |
| 20:00 | | 振り返り | |
| 21:00 | 交流会 | 自由活動時間 ワークショップに向けて等 | |
| 22:00 | 班長会議 | 班長会議 | |
| 23:00 | 入浴 | 入浴 | |
| | 消灯・就寝 | 消灯・就寝 | |



まず目についた講習会の方
 針は「自分にチャレンジする
 生活」。自分は積極性やリー

板倉 恵一

いわき市立草野小学校

指導者講習会から
 得たこと

ダー性が特にある方ではない
 のですが、資料にあった「心、
 行動、習慣、性格、人生が変
 わる。」という言葉に触発さ
 れ、この三日間、せっかくだ
 からチャレンジして自分を高
 めてやろうと、開講式で考え
 ました。自分から大勢の前で
 発言したり、班のリーダーに
 なったり(これは年齢のせ

指導者講習会に参加して

い?)。およそ普段とはちがう姿をこの講習会で出せた自分に、少し自信が芽生えたりもしました。

時計や掲示板を見て、考えて、自分で動く「指示のない生活」「注意深い生活」。普段の研修とあまりにも違っていて、最初は戸惑いましたが、次第に心地よくなりました。他の先生方の気付きに感心したり、多少なりとも気付けた自分に喜んだり。

「他のために自分を生かす」。これは、VS 活動や班活動で特に意識するようにしました。人の役に立つことは自分の喜びにつながると、改めて感じる事ができました。以前、先輩の先生が言っていた言葉も思い出しました。「能力は人のために使うもんだ。自分のためにしか使おうとしない者は犯罪者になっちゃう」

「自分の考えを持つ生活」。これには先見の時間とワークシヨップが大いに役立ちました。特にワークシヨップの「JRC 活動をどのように学校教育に生かすか」では、自分の課題を明らかにし、具体的な取り組みをまとめねばなりませんでした。空いている

時間に班のみんなで頭を悩ませ、大変忙しかったのですが、だからこそ、様々なプログラムに真剣に取り組んだとも言えると思います。

講習会での一番の収穫は、すばらしい仲間との出会いでした。それは、思わぬ減点もあったフィールドワークでの体験が大きかったと思います。活動後、仲間が「ちらっと思ったことは実践すべきだった。」と言っていました。まさに「気づき」「考え」「実行する」が試される場面がありました。やった方がいいかなと思うことは、やったほうがいいんだと、今は思えます。

ふり返ってみると、スタッフの皆様が方針を大切にしてくださったおかげで、すばらしい仲間ができたのではないかと思います。自分が感じた喜び・心地よさ・自信、つくる事ができた仲間。JRC の考えを学校教育に取り入れて、子どもたちにも経験させたいと強く感じました。スタッフの皆様本当にありがとうございました。

*VS・ボランティアサービスのこと。他者のために自分を活かす活動を指します。

す。活動を明確にするために VS カードに記入し、本当に need があるか確認し、実行することもあります。

指導者講習会で 学んだこと

下郷町立旭田小学校

小関 沙織

まず驚いたのは、受付の時でした。広い施設、「どこに集合すればよいのだろうか：誰かに聞こうかな。」と思った時、言われたのは、「要項にすべて書いてあります。」でした。その言葉の意味は、講義を受けていく中で分かりました。赤十字の活動の態度目標は、「気づき、考え、実行する」です。つまり、この講習会を通して、私たちもこれを、体全体を使って学んでいくということだったのです。

しかし、自分で「気づく」ことは、容易ではありません。常に周りを見ていることが必要です。最初の日は、何をしたらよいかわからず、終わってしまいました。活動のおもしろさが分かっ

てきたのは、班での活動が始まってからです。最初のホームルームでは、他の先生方がどんな意見を出してくださる、あれよあれよという間に楽しい話し合いになっていきました。経験が豊富な先生方から出される話は、どれも勉強になり、もっと班活動をしていきたいという気持ちになりました。

フィールドワークでは、ヒントが書かれたワークシートを片手に、各ポイントを回ります。ポイントには、班で団結してクリアするお題やこれまでの演習で学んだことを生かすお題が出されました。暑さのために

つい「気づき」を忘れてしまったところもありましたが、終わった後はメンバー全員でクリアした達成感で、笑顔が絶えませんでした。

様々な活動を終え、いよいよメインイベントであるワークシヨップの班発表が迫ってきました。それに向けて準備を行う過程では、熱心な話し合い

が続けられました。「気づき、考え、実行する」子どもを育てていくためには、学校生活のあらゆる場面でのアプローチが考えられました。そして、普段の指導で少しだけ変えればできそうなことも、話し合いでたくさん出されました。どれも、「すぐにやってみよう」と思うものばかりです。本番ではそれぞれの思いを出し切った発表ができたと思います。

この講習会で学んだことは、「気づき、考え、実行する」ことの難しさと、それを達成するために信頼できる仲間



▶トレッキング



して、参
タッフと
ティアシ
ボラン
会人)が
学生・社
バー(大
R Cメン
元高校J
R Cメン

日本赤十字社福島県支部では東日本大震災復興支援事業「赤十字すまいるキャンプ」を八月五日から七日の二泊三日で実施しました。原発事故の影響により移転し、これまでと別な場所での学校生活を送っていたり、元の場所に戻ったが、厳しい教育環境にある双葉郡の学校を中心に小学五年生から中学二年生までの二十九人が参加しました。

高校J R Cメンバー六人、

「赤十字すまいるキャンプ」

が開催される

が必要だということです。学級で、自主性をいつも子どもたちに求めてしまいますが、今回自分で体験してみても「気づく」ことは、簡単でなく、また、自己満足の世界に陥ってしまうこともあると感じました。そんなときに大切な

は、自分に意見をくれる仲間
の存在です。気づきにくいこ
とを気づかせてくれる仲間、
多面的に考えさせてくれる仲
間がいて、はじめて自主性が
育つ環境が整うと感じました。
ここで学んだことを、今後の
指導に生かしていきたいです。

加者の
体調管
理や安
全管理
に気を
つけな
がら二
泊三日
参加者
とともに
活動し
まし
た。参
加した
小中学
生とスタ
ッフJ R C
メン
バー、元
メンバー
は別れが
たく、涙
している
場面も見
られ、両
者にとって
思い深い
「赤十字
すまいる
キャンプ」
になりました。



▲集合写真

○2泊3日のプログラム

1日目

| | | | | |
|--|-----|--------------|--------|----------|
| | 開会式 | 救急法練習 を学ぶ | パークゴルフ | 入浴 就寝 |
|--|-----|--------------|--------|----------|

2日目

| | | | | |
|---------------|--------|---------------|---------------------|----------|
| デコ平 トレッキング | バーベキュー | カナディアン カヌー | キャンドル作り キャンドルナイト | 入浴 就寝 |
|---------------|--------|---------------|---------------------|----------|

3日目

| | | | | |
|--------------------|-----|--|--|--|
| 記念品作成 (フォトスタンド) | 閉会式 | | | |
|--------------------|-----|--|--|--|



24年度 各地区トレセン、指導者研修会・講習会 開催状況

| 小・中 トレーニングセンター | 地 区 | 月 日 | 会 場 | 参加人数 概数 | 主な内容 | |
|-------------------|----------|-----------------|-----------------|-------------|-------------------------------|----------------------|
| | 福島・伊達・安達 | 7月30日(水)、31日(木) | 福島一小 | 60 | レクリエーション、救急法、フィールドワーク、テント設営 | |
| | 郡山 | 8月1日(金) | サンサン・グリーン湖南 | 71 | 講話、GW、ネイチャーゲーム、長野県JRC とのTV 交流 | |
| | 西白河 | 8月20日(水) | 表郷小 | 40 | 救急法、炊き出し | |
| | 会津若松・北会津 | 8月1日(金) | 国立磐梯青少年交流の家 | 55 | 講義、救命救急法、フィールドワーク | |
| | 耶麻 | 7月31日(木) | 山都小 | 69 | 防災講演、防災時の救急法、非常炊き出し | |
| | 両沼 | 8月1日(金) | 福島県会津自然の家 | 118 | 講話、救急法、UFO ゴルフ | |
| | いわき | 8月21日(木) | いわき好間第一小学校 | 22 | 講話、救急法、レクリエーション、FW | |
| | 高 校 | 県高校 | 7月11日(金)～13日(日) | 国立磐梯青少年交流の家 | 70 | 講義、救急法、国際交流、WS、FW、GW |
| | | 県北 | 8月4日(月)、5日(火) | 支部 | 50 | 講義、炊き出し、国際理解、福祉レク、WS |
| 県南 | | 8月8日(金)、9日(土) | 支部 | 36 | 講義、救急法、炊き出し、FW、GW | |
| 会津 | | 7月28日(月) | 喜多方プラザ | 27 | 講義、KJ 法による研修 | |
| | いわき | 8月6日(水) | 四倉高校 | 46 | 手話講座、講話、災害時高齢者生活支援講習、シニア体験 | |

| 指導者研修会・講習会 | 地 区 | 月 日 | 会 場 | 参加人数 概数 | 主な内容 |
|------------|----------|-----------------|-------------|------------|---------------------|
| | 福島、伊達、安達 | 7月30日（水） | 福島一小 | 17 | 講義、救急法 |
| | 岩瀬 | 5月7日（水） | 文化の森てんえい | 40 | 講話 |
| | 石川 | 6月9日（月） | 中谷第二小 | 27 | 講義、非常炊き出し、災害時の救急法 |
| | 田村 | 6月11日（水） | 船引公民館 | 42 | 救急法 |
| | 西白河 | 6月25日（水） | 白河一小 | 40 | 講義、救急法 |
| | 東白川 | 6月16日（月） | 下関河内小 | 24 | 講話、アレルギーへの対応 |
| | 会津若松・北会津 | 8月1日（金） | 国立磐梯青少年交流の家 | 25 | 講義、救急法 |
| | 耶麻 | 7月31日（木） | 山都小 | 32 | 防災講演、防災時の救急法、非常炊き出し |
| | 両沼 | 8月1日（金） | 福島県会津自然の家 | 31 | 講義、救急法 |
| | いわき | 8月21日（木） | いわき好間第一小学校 | 9 | 講義、救急法 |
| 相馬 | 5月29日（木） | 南相馬市鹿島区ふれあいセンター | 46 | 講演 | |

平成二十六年
日本赤十字社福島県支部主催・復興支援事業
国際交流事業「フィリピン派遣」

青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的事業として県内の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣し、同国の青少年赤十字メンバーたちとの交流研修を通して、国際性豊かな青少年を育成し、本県青少年赤十字活動のより一層の推進をはかることを目的に実施されました。

例年実施されていましたが東日本大震災に伴い二年間見送られた経緯があります。今年度は復興支援事業の一つとして青少年赤十字加盟校と原発事故により移転を余儀なくされた浜通りの八高校に参加の希望者を募りました。東日本大震災による地震・津波に加え福島県では福島第一原子力発電所の事故による被害、その後遺症にまだあえぎながらも復興を進めている状況にともなう支援を受けたことに対する感謝も伝え交流をはかりました。

●日 程

| 月 日 | 内 容 |
|----------|---|
| 8月10日(日) | 移動日 |
| 8月11日(月) | フィリピン赤十字本社訪問、ラカン・デュラ公立高校交流 |
| 8月12日(火) | ケソン市支部訪問、パタサン・ヒルズ公立高校交流、パヤタス地区訪問(リカセンター・家庭訪問) |
| 8月13日(水) | オロンガボ市支部訪問、オロンガボ市コミュニティーセンター訪問、オロンガボ公立高校交流、パタアン州支部訪問 |
| 8月14日(木) | バランガ公設市場見学、第2次世界大戦跡地見学(サマット山、死の行進スタート地(〇地点)、フレンドシップタワー)、パタアン原発見学 |
| 8月15日(金) | プラスチックリサイクル工場見学、ココヤシリサイクル施設見学、ウオーターリリーリサイクル施設見学、一般家庭生ゴミリサイクル施設見学、モールオブアジア見学 |
| 8月16日(土) | 移動日 |

参加者(敬称略)

西野 剛生(福島東高校二年)、澤田 夏子(福島成蹊高校二年、生徒副代表)、鬼頭 朋加(安積高校二年、生徒代表)、新田 優花(あさか開成高校一年)、川井 典恵(白河旭高校 三年)、花

見 涼(喜多方桐桜高校二年)、小林 憲人(勿来工業高校 二年、生徒副代表)、佐川 愛実(磐城第一高校二年)、佐々木珠恵(福島高校教諭、団長)、日下 淑子(福島東高校教諭) 他支部職員二名 計十二名

平成二十六年
第六回青少年赤十字国際交流事業
「フィリピン派遣」に参加して

福島県立福島高等学校

佐々木珠恵

私たちは、第六回青少年赤十字国際交流事業「フィリピン派遣」のメンバーとして、平成二十六年八月十日から十六日までの一週間、フィリピンを訪問しました。県内の JRC メンバー八名と引率教員二名、日本赤十字社福島県支部から職員二名、合計十二名での今回の訪問は、大変有意義なものとなり、多くのことを自分の心で感じ、学ぶ貴重な機会となりました。

フィリピンでは、フィリピン赤十字の本社をはじめ、たくさんの支部を訪問させてい

ただきました。昨年の台風ヨランダの際にどのような支援活動を行ったのか、また現在の復興状況などのお話をうかがいながら、災害大国とも呼ばれているフィリピンでの赤十字の活動からは多くのことを学ぶことができると感じました。また、地域の学校を訪問し、お互いの活動報告や文化披露をして生徒達と交流をしました。私たちは、福島

の代表として、東日本大震災の際にフィリピンからたくさんの方の支援をいただいたことに対する感謝の念を伝え、震災後の福島の現状について発表しました。さらに、フィリピン滞在中は、現地の赤十字ユー

スメンバーと多くの時間を共にし、バスの中や食事会でお互いに交流を重ねることができ、最後は本当に別れがたい様子でした。このように、この派遣事業の目的である、青少年赤十字の実践目標の一つ「国際理解・親善」を具体的に実践し、さらに「東日本大震災時の支援に対する謝意と福島の現状を伝える」という任務も、何とか果たすことができたのではないかと思います。

また、ごみ山があるパヤタス地区の訪問やラス・ピニヤ



スのリサイクル施設の訪問を通して、貧困問題や環境問題、雇用の問題について、またバタアン原発の見学を通して、まさに福島、いや日本が抱えている原発の問題について考えさせられました。「百聞は一見にしかず」とよく言いますが、現地を訪れ自分の心で感じ学んだものに勝るものはないと、私自身心から感じました。

今回の「フィリピン派遣」は、台風接近により飛行機の出発が一時間遅れた以外、フィリピン滞在中は天候にも恵まれ、また誰一人として体調を崩すこともなく過ごすことができました。私個人としても、フィリピンの方々のホスピタリティーのすばらしさと、今回出会ったフィリピンの生徒たちのキラキラした真つすぐな瞳は、決して忘れられないものとなりました。そして、派遣メンバーも、普段の活動やTC（リーダーシップトレーニングセンター）で学んだ「先見」や「VS（ボランティアサービス）」を実践しながら、全員が協力しあい、とても充実した訪問となったにちがいありません。今回の貴重な体験と自身

の心で感じとったものを今後のJRC活動に活かし、その心を大きく育てていってくださることを願っています。最後に、非力な団長を補うのに余

フィリピンで学んだこと

福島県立安積高等学校

鬼頭 朋加

皆さんはフィリピンについてどんなことを知っていますか。私のフィリピンの知識はこの事業に参加するまでわずかなものでした。もちろんニュースでの台風被害の報道や、教科書にのっているような情報は知っていました。しかし実際にフィリピンについて調べてみるとその歴史が複雑なことや、格差社会であることがわかりました。そしてフィリピンを訪れてみると文字からだけではわからない発見が毎日のようにありました。この七日間は忙しくはありましたがとても充実していました。

私たちはフィリピン赤十字本社を訪問、見学しました。活動の説明で台風の多いフィ

ル力を發揮してくれた派遣メンバーと、今回の「フィリピン派遣」に際してご指導ご支援をいただいたすべてのみなさまに心から感謝申し上げます。

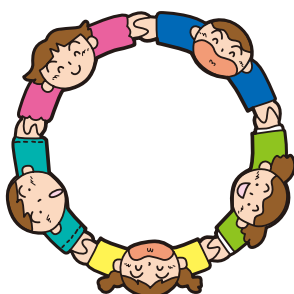


リピンでは赤十字の仕事として台風被害の救助や、復興支援があります。その様子のスライドや聞いた話から、近年、以前よりもさらに勢力の強い台風がおり、被害も大きくなっているということが

わかりました。また、台風によって被害を受けた島々では多くの人が生活に困るようになってしまっています。そのような人たちは職や食べ物を求めて首都圏に移住してきませんが、結局住むところもなく、フィリピンの貧困層とも言える生活しなければならぬ現状があります。マニラ市内を移動中、実際にありあわせの材料で作った家に住む人々の様子をみて、このように困窮している人々に援助として何か出来ることはないかと思いました。

交流プログラムの一つとしてフィリピンの学校をいくつか訪ねました。そこで私たちは日本の高校生活や福島について、また浴衣の着付け、抹茶のお手前、アイドルの踊りなど日本の文化や現状を知ってもらえるような発表をしました。フィリピンの学校の学生たちは伝統的なバンブーダンスやガラスのコップを手のひらと頭にのせて踊る優雅な踊りを見せてくれました。訪れた学校ごとに少しずつ違っていったそれらはフィリピンの過去の宗主国であった国を思わせるような部分もあり、歴史を垣間見せてくれました。

フィリピン派遣の全体を通して私が驚いたことは、フィリピンの子どもたちの笑顔の多さでした。ゴミ山問題を抱えるパヤタスの子ども達も、訪れた学校の子ども達もたくさん笑っていました。その中で強く印象に残ったのは私たちのバスが停まっているときに手を差し出してきた男の子の事です。彼は少しも笑わず私たちに食べ物かお金を求めました。しかし私たちはそのとき食べ物をだれも持っていなかったため、何も出来ませんでした。彼のような小さな子どもたちの笑顔がないのは悲しい事だと思っています。これから子ども達が進む世界を創っていく活動をしていきたいと思っています。



今年度も多くの学校・団体が赤十字救急法を受講

青少年赤十字の実践目標の一つであります「健康・安全」を実践しようと各地区でTCなどを利用して救急法を受講した学校・団体です。

平成26年度赤十字救急法受講状況

| 日時 | 学校・団体 | 受講者 | 人数 | 日時 | 学校・団体 | 受講者 | 人数 |
|-------------|---------------------|------------|----|---------------------|-----------------------|-------------|-----|
| 基礎講習 | | | | 7月7日 | 福島市立平田小学校 | 保護者・教職員 | 14 |
| 8月8日 | 高等学校県南地区連絡協議会(県南TC) | JRCメンバー | 30 | 7月8日 | 猪苗代町立緑小学校 | 児童・保護者・教職員 | 57 |
| 8月18日 | 高等学校県北地区連絡協議会 | JRCメンバー | 16 | 7月9日 | 会津若松市立日新小学校 | 保護者・教職員 | 19 |
| 8月25日 | 福島県磐城第一高等学校 | JRCメンバー | 31 | 7月9日 | 二本松市立油井小学校 | 児童・保護者・教職員 | 71 |
| 8月26日 | 東日本国際大学附属昌平高等学校 | 福祉コース第2学年 | 16 | 7月10日 | 郡山市立二瀬中学校 | 生徒 | 43 |
| 8月26日 | 福島県立須賀川高等学校 | JRCメンバー | 31 | 7月10日 | 本宮市立五百川小学校 | 保護者・教職員 | 72 |
| 養成講習 | | | | 7月11日 | 白河市立白河第一小学校 | 教職員 | 30 |
| 8月19～20日 | 高等学校県北地区連絡協議会 | JRCメンバー | 16 | 7月12日 | 福島県高等学校JRC指導者協議会 | JRCメンバー | 12 |
| 8月26～27日 | 福島県磐城第一高等学校 | JRCメンバー | 31 | 7月14日 | 白河市立小田川小学校 | 教職員 | 13 |
| 8月27～28日 | 東日本国際大学附属昌平高等学校 | 福祉コース第2学年 | 16 | 7月16日 | 福島市立蓬萊小学校 | 児童・保護者・教職員 | 110 |
| 短期講習 | | | | 7月16日 | 福島市立金谷小学校 | 保護者・教職員 | 8 |
| 4月4日 | 福島県立橘高校 | 教職員 | 22 | 7月18日 | 福島市立岳陽中学校 | 生徒・教職員 | 40 |
| 6月4日 | 福島県立白河第二高校 | 生徒・教職員 | 85 | 7月18日 | 福島市立蓬萊小学校 | 教職員 | 18 |
| 6月6日 | 郡山市立朝日が丘小学校 | 教職員・保護者 | 57 | 7月24日 | 福島県立須賀川養護学校 | 教職員 | 41 |
| 6月9日 | 須賀川市立阿武隈小学校 | 教職員・保護者 | 34 | 7月24日 | 田村市立滝根中学校 | 教職員 | 13 |
| 6月9日 | JRC石川地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 30 | 7月24日 | 白河市立白河第三小学校 | 保護者・教職員 | 39 |
| 6月11日 | JRC田村地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 42 | 7月25日 | 白河市立白河第二小学校 | 教職員 | 23 |
| 6月14日 | 郡山市立東芳小学校 | 保護者・教職員 | 61 | 7月30日 | 福島・伊達・安達地区JRC指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 36 |
| 6月18日 | 郡山市立高瀬小学校 | 児童・保護者・教職員 | 91 | 7月30日 | 福島・伊達・安達地区JRC指導者協議会 | 教職員 | 17 |
| 6月18日 | 白河市立大信中学校 | 教職員 | 11 | 7月31日 | 耶麻地区JRC指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 104 |
| 6月20日 | 白河市立みさか小学校 | 保護者・教職員 | 24 | 7月31日 | 福島市立蓬萊中学校 | 教職員 | 18 |
| 6月20日 | 会津若松市立一箕小学校 | 保護者・教職員 | 31 | 8月1日 | 両沼地区JRC指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 117 |
| 6月24日 | 郡山市立永盛小学校 | 保護者・教職員 | 31 | 8月1日 | 会津若松・北会津地区JRC指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 76 |
| 6月25日 | JRC西白河地区指導者協議会 | 教職員 | 33 | 8月19日 | 指導者講習会 | 教職員 | 51 |
| 6月25日 | 郡山市立薫小学校 | 教職員 | 20 | 8月20日 | 西白河地区JRC指導者協議会 | 保護者・教職員・児童 | 44 |
| 6月27日 | 白河市立白河第二小学校 | 児童・保護者・教職員 | 45 | 8月21日 | いわき地区指導者協議会 | 保護者・教職員・児童 | 31 |
| 6月27日 | 白河市立白河第五小学校 | 児童・保護者・教職員 | 53 | 8月25日 | いわき市立平第二中学校 | 教職員 | 29 |
| 7月1日 | 郡山市立桜小学校 | 保護者・教職員 | 35 | 9月6日 | 柳津町立西山中学校 | 生徒・教職員 | 48 |
| 7月1日 | 郡山市立守山小学校 | 保護者・教職員 | 31 | 水上安全講習会 | | | |
| 7月2日 | いわき市立郷ヶ丘小学校 | 保護者・教職員 | 41 | 6月26日 | 中島村立吉子川小学校 | 保護者・教職員 | 47 |
| 7月3日 | 郡山市立高倉小学校 | 保護者・教職員 | 30 | 7月1日 | 二本松市立小浜小学校 | 教職員 | 20 |
| 7月3日 | 白河市立五箇小学校 | 児童・保護者・教職員 | 39 | 7月9日 | 大玉村立大玉小・玉井小・玉井幼稚園・保育所 | 教職員 | 36 |
| 7月3日 | 郡山市立橘小学校 | 保護者・教職員 | 46 | 7月12日 | 大玉中学校・保育所 | 教職員 | 19 |
| 7月4日 | 郡山市立柴宮小学校 | 保護者・教職員 | 35 | 9月10日 | いわき市立好間第一小学校(※) | 児童 | 129 |
| 7月4日 | 郡山市立宮城小学校 | 保護者・教職員 | 61 | 9月11日 | 福島市立杉妻小学校(※) | 児童 | 118 |
| 7月4日 | 二本松市立浜川小学校 | 保護者・教職員 | 35 | (※)は着衣での水上安全法です | | | |
| 7月4日 | 鏡石町立第二小学校 | 保護者・教職員 | 15 | 健康生活支援講習 | | | |
| 7月5日 | 田村市立瀬川小学校 | 保護者・教職員 | 29 | (養成講習) | | | |
| 7月5日 | 田村市立栗田小学校 | 児童・保護者・教職員 | 53 | 4月2～4日 | 高等学校県北地区連絡協議会 | JRCメンバー | 16 |
| 7月5日 | 本宮市立白岩小学校 | 児童・保護者・教職員 | 80 | (災害時高齢者支援講習) | | | |
| 7月5日 | 石川町立沢田小学校 | 児童・保護者・教職員 | 19 | 8月6日 | 高等学校いわき地区連絡協議会 | 教職員・JRCメンバー | 41 |
| 7月7日 | 小野町立飯豊小学校 | 保護者・教職員 | 34 | | | | |

震災から三年が経ちリーダーシップ・トレーニングセンターも日帰りが一泊二日に、一泊二日が二泊三日と充実し

あ
と
が
き



た様に思います。これも指導してくださっている指導者協議会の先生方のおかげだと思っています。また、お忙しい中、原稿をお寄せいただいた先生方始め、協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

赤十字の豆知識…②

「赤十字のマーク」

普段なにげなく目にしている赤十字のマーク（標章といいます）には2つの意味があります。

1. 赤十字に関係ある人または物を表示するため。（表示の標章）
2. 戦争時あるいは紛争時に傷病者を保護する赤十字関係者、赤十字の施設ほか、軍の衛生部隊・施設等を安全に保護するため。（保護の標章）

このマークは、1949年のジュネーブ4条約より定められ、イスラム教の国々では赤い三日月（赤新月）のマークを使っています。

2005年12月5日の国際赤十字締約国会議において、新たに「レッドクリスタル」が第3のマークの採用が正式に決定されました。



▲赤十字マーク



▲赤新月マーク



▲レッドクリスタル
マーク